



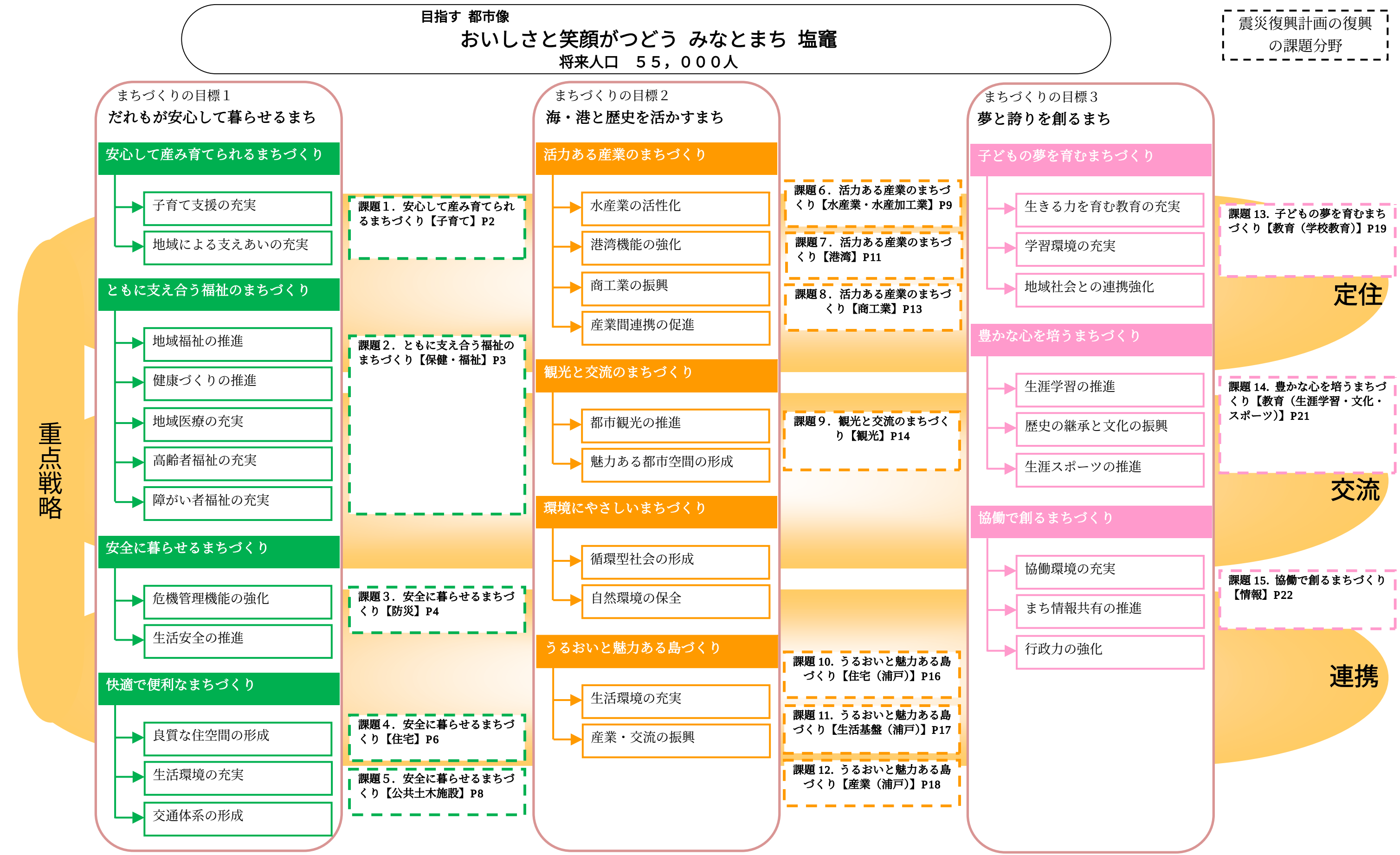
塩竈市の復興に向けた 課題（案）について

《長い間住みなれた土地で、安心した生活をいつまでも送れるように》

塩竈市

平成23年8月2日

第 5 次塩竈市長期総合計画と塩竈市震災復興計画における復興の課題分野の関連図



重点戦略

定住

交流

連携

課題 1 安心して産み育てられるまちづくり【子育て】

■現 状

○震災による住宅の被害、父母の就労環境の変化などにより家庭における子育て環境が悪化。

■復興の課題

1. 被災した児童・保護者への心のケア。被災世帯における児童虐待やDVの増加の懸念。

■長期総合計画における目指す目標

○母子保健事業や多様化する保育サービスなどの充実に取り組み、安心して子どもを産み、育児を楽しみ、働きながらも子育てができる環境をつくれます。

- (1) 出産・育児環境の整備
- (2) 働きながら子育てできる環境の整備
- (3) 子育て家庭への支援

○地域で子育てを支え合う社会をつくれます。

- (1) 子育てしやすい生活環境の整備
- (2) 地域による子育て体制の構築

■復興の方向性

1. 親子の心のケアや子育て相談を受ける体制の強化。児童虐待やDVを未然に防ぐための保健師などによる訪問指導の実施や地域での見守り体制の充実。

課題２　ともに支え合う福祉のまちづくり【保健・福祉】

■現　　状

○避難所などの避難生活での疲労の蓄積や、仮設住宅での生活環境面の変化などによって、被災者の身体的、精神的ストレスが増大。

■復興の課題

1. 被災者や災害弱者の健康管理、心のケア、疾病予防、重症化防止。特に、高齢化率が県平均よりも高い本市の実情を踏まえた高齢者への対応。

■長期総合計画における目指す目標

○市民自ら健康づくりに取り組み、笑顔で健やかに暮らし続けられる環境をつくりま
す。

- (1) 成人保健の充実
- (2) 精神保健の充実
- (3) 食育活動の推進

○高齢者が生きがいと誇りを持ち、笑顔で安心して暮らしていける環境をつくりま
す。

- (1) 介護予防の充実
- (2) 介護サービスの充実
- (3) 日常生活の支援
- (4) 認知症高齢者対策の充実

○障がい者が自立し、安心して暮らしていける地域環境をつくりま
す。

- (1) 障がい者の自立支援
- (2) 障がい者福祉体制の充実

■復興の方向性

1. 仮設住宅入居者および在宅での被災者への訪問指導体制の充実や心のケアの実施。ワクチン接種などに対する経済的支援の実施。各関係機関との連携強化による見守り体制の整備。

課題3 安全に暮らせるまちづくり【防災】

■現 状

- チリ地震津波や宮城県沖地震の津波に対応した防潮堤の整備が進められてきたが、今回の津波はこれを上回る規模であり被害が甚大。
- 公共施設、一般住宅の耐震化の推進により、地震による被害を最小限に抑制。

《参考》

住宅の耐震化率（塩竈市耐震改修促進計画における耐震性を有する住宅の割合）
78.0%（平成20年度現在）

■復興の課題

1. 今回の津波による被害を踏まえ、国や県の方針と合わせた従来の防潮堤などによる一線防御から道路の嵩上げ、防災緑地などによる多重防御へ転換し、市民の安全・安心の確保を図ることが必要。
2. 地震による被害は少なかった一方で、脆弱性が明らかになった施設等の耐震化が必要。
3. 多重防御の推進と併せた避難場所・避難経路の見直し、通信インフラの整備、防災備蓄の見直しなど総合的な対策方針の検討。

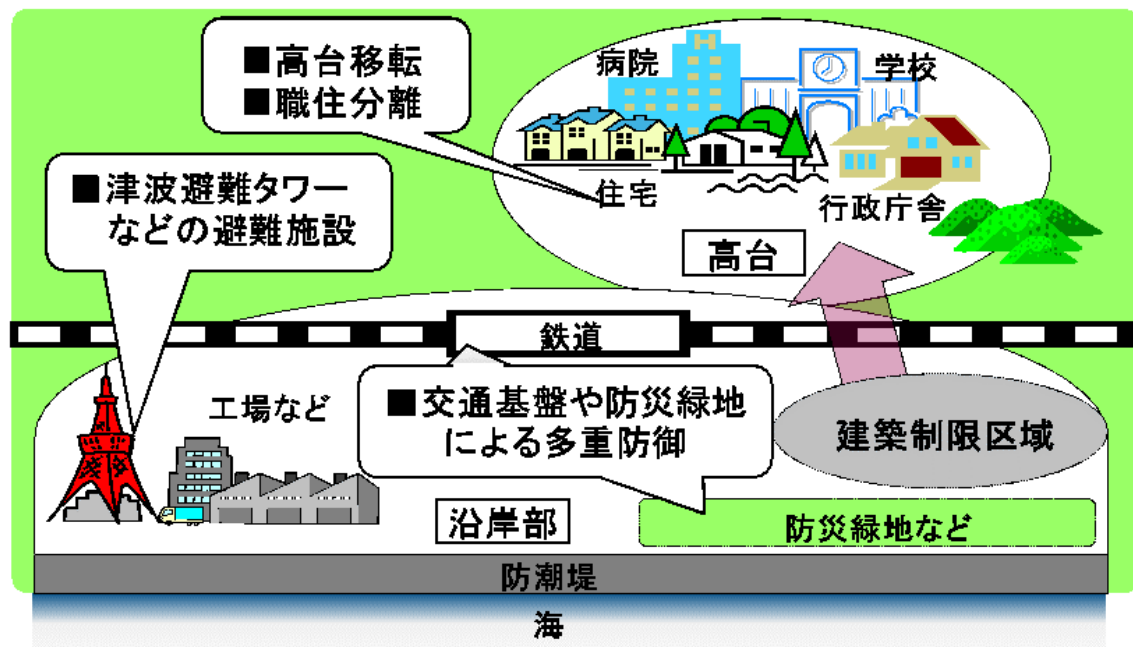
■長期総合計画における目指す目標

- 地震や、津波、火災などのさまざまな災害による被害を最小限に防ぎ、迅速に対処できる災害に強いまちをつくれます。
- (1) 自然災害対策の推進
- (2) 消防体制の充実
- (3) 防災体制の充実
- (4) ライフラインの整備・確保
- (5) 危機管理体制の強化

■復興の方向性

1. 被災した防潮堤の再生・整備を促進するとともに、背後の幹線道路を高盛土構造として堤防機能を付与することや防災緑地、安全な避難場所、避難経路を整備するなど、災害に強いまちづくりを推進。
2. 一般木造住宅並びに公共公益施設の耐震化の促進。
3. 地域防災計画の見直し。

『宮城県震災復興計画（第2次案）における多重防御・高台移転・職住分離のイメージ』



※高台移転・職住分離については特に津波による被害が甚大だった被災市町に対する県案

課題4 安全に暮らせるまちづくり【住宅】

■現 状

○東日本大震災による津波によって住家に甚大な被害

- ・本土側：市域面積の約22%が浸水。港町、藤倉、北浜地区などで大きな被害。
- ・浦戸地区：居住区域のほとんどで浸水。一部の高台地域などを除いて壊滅的な被害。

■復興の課題

1. 市域面積が狭く遊休未利用地がほとんどないことから、高台地域への移転の候補地を確保することが困難。
2. 護岸や道路などによる多重防御だけではなく、宅地の地盤沈下対策が必要。
3. 自力での住宅再建が困難な被災者の住宅再建支援などの方策の検討。
4. 壊滅的な被害を受けた浦戸地区の住宅再建。

■長期総合計画における目指す目標

○本市の誇るすぐれた景観などを活用し、快適で質の高い住まいづくりや住環境整備に努め、いつまでも住み続けることができる、魅力あるまちをつくれます。

- (1) 魅力ある住まい・まちづくりの展開
- (2) 良好な住宅地の形成

■復興の方向性

1. 今まで暮らしてきた地域での住宅再建を原則とする復興。
2. 本土側の港町、北浜、藤倉地区等における浸水対策と併せた地盤改良、地盤の嵩上げ。
3. 災害公営住宅などによる住宅の再建支援
4. これまでのコミュニティを維持することを前提とした高台移転や災害公営住宅などによる住宅の再建支援

【宮崎市】未利用地の地区（1）

凡例

- 市域市界
- 市界線
- 市界線（追加）
- 【市界線の土地所有権別】
- 市
- 市界（追加）
- 市界（追加）
- 市界（追加）

資料：平成17年度国土利用計画
国土利用計画委員会

1km

【注】市界線は図中であり、実際の市界と異なる場合があります。

東日本大震災による被災状況調査 【宮崎5】

アジア復興・持続可能な社会の実現

課題 5 安全に暮らせるまちづくり【公共土木施設】

■現 状

○市民生活に密接に関わりのある道路や上下水道施設、公園など多くの公共土木施設が被災。

■復興の課題

1. 市民生活の安全・安心を確保するため、被災した公共土木施設等の早期復旧が必要。
2. 復興を見据えた、公共土木施設の防災機能、施設の機能強化が必要。

■長期総合計画における目指す目標

○うるおいと緑にあふれ、子どもたちが安全に過ごすことのできる、良好な生活環境をつくれます。

- (1) 生活基盤の整備
- (2) うるおい空間の充実

■復興の方向性

1. 震災による被害を受けた道路、上下水道など、市民生活に欠くことのできない公共土木施設の早期復旧。
2. 防災や復興に向けた道路・公園などの機能強化、上下水道施設の耐震化や更新の推進。

課題6 活力ある産業のまちづくり【水産業・水産加工業】

■現 状

- 早期に応急復旧を遂げた塩竈市魚市場についても、その後の余震等により、本来の機能が低下。
- 新浜地区にある水産加工業の集積地である水産加工団地は、以前から地盤沈下が著しかったが、今回の震災で地盤沈下がさらに進行。企業の減少も深刻化。
- 浦戸地区を中心として、浅海養殖漁業施設に甚大な被害。

■復興の課題

1. 魚市場の本格的な復旧と今後を見据えた高度化に緊急的に着手することが必要。さらに、復旧にあたり、塩釜漁港との一体的な利用を行っている事から、漁港整備の付随施設として、漁港整備と連携した整備が必要であり、災害復旧に対する補助制度の拡充が必要。
2. 水産関連企業の流出抑制と企業誘致を図り、基幹産業による市内経済の復興を牽引するための水産加工団地の基盤整備。
3. 度重なる災害により浅海養殖漁業者の経営状況は極めて厳しく、牡蠣処理場や海苔乾燥機など養殖漁業に不可欠な施設設備の復旧を行う財務力が低下。さらに、浅海養殖漁業従事者の高齢化と漁業後継者不足による生産力が低下。

■長期総合計画における目指す目標

- 付加価値の高い水産業を目指し、関連施設の改善を図るとともに、ブランド化やグローバル化にも対応した流通環境をつくります。
 - (1) 魚市場の活性化
 - (2) 水産加工業の振興
 - (3) 浅海養殖漁業の振興

■復興の方向性

1. マグロに特化している取り扱い魚種を幅広いものに変えるために、凍結機能を持った冷蔵庫整備を支援するなど魚市場背後地の機能を強化。さらに、県が実施する漁港の災害復旧事業に合わせた魚市場建屋等施設の高度衛生機能を持った新しい施設への建替。
2. 水産加工団地における地盤沈下対策の実施、空き工場の活用による新規企業の誘致、研究施設などの加工関連施設の誘致など、水産加工業の拠点としての再生。
3. 浅海漁業施設の早期復旧と、うらと海の子ブランドの定着やウェブサイト等の直接販売ルートの開拓、経営体の最適化などにより、養殖漁業の経済的・職業的魅力を高めることによる後継者の育成。

課題 7 活力ある産業のまちづくり【港湾】

■現 状

○仙台塩釜港・塩釜港区の港湾施設が震災による被害を受け機能が低下。さらに仙台北港区の甚大な被害などによって港湾企業の経営が悪化。また、護岸未整備となっている北浜地区の緑地護岸の早急な整備が必要。

■復興の課題

1. 塩釜港区は仙台港区に比べて比較的被害が少なかったことや相対的な重要度の低さなどから、復旧予算が仙台港区に重点配分されるなど、塩釜港区の復興の立ち遅れが懸念。
2. 港湾関連企業の施設も被災しており、効率的な復興を図る上で、仙台港区への集約化が進行することが懸念。
3. 北浜緑地護岸の防災上の計画高の再検証と塩竈らしい港奥部の景観形成に配慮した整備。

■長期総合計画における目指す目標

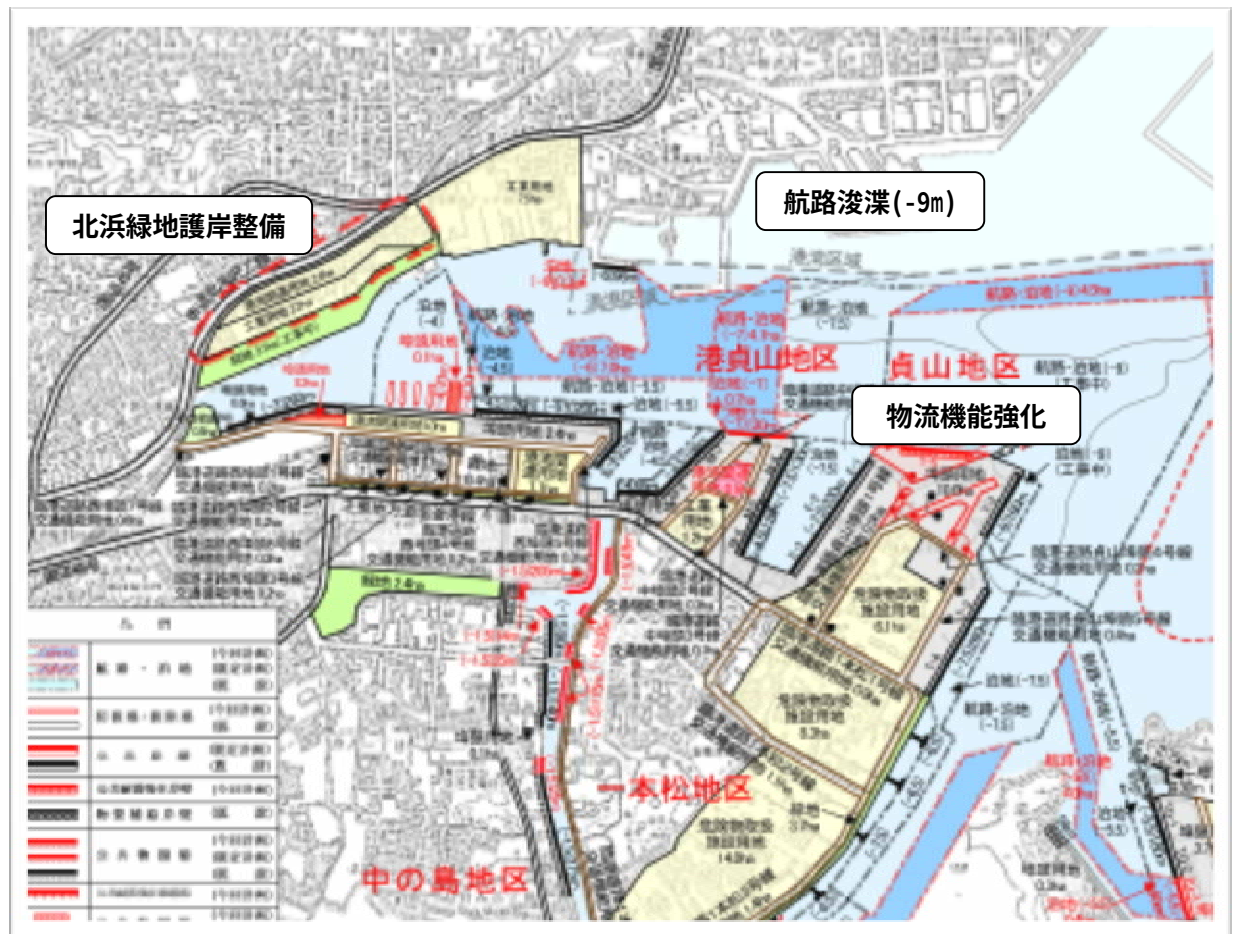
○塩釜港区の整備と利活用を促進し、国内海上流通の一翼を担うとともに、魅力ある“みなと”をつくります。

- (1) 港湾機能の強化促進
- (2) 利活用の推進
- (3) “みなと”の魅力向上

■復興の方向性

1. 施設の原形復旧にとどまらず、災害復旧に併せ、県の港湾計画に基づく塩釜港区の機能強化の促進、それに合わせた効率的な施設整備の促進。
2. 民間企業が今後も港湾関連事業を継続できるよう、根本的な浸水被害の解消策を実施し、港湾機能を確保。
3. 長期総合計画に沿った港奥部の整備と、沿岸部の住民が安全・安心に暮らし続けられる都市基盤の形成。

『仙台塩釜港港湾計画図（塩釜港区）抜粋』



課題 8 活力ある産業のまちづくり【商工業】

■現 状

○市内事業所の大半を占める中小・零細企業が被災によって深刻な被害。被災者を含め、市内の雇用環境が悪化。

■復興の課題

1. 中心市街地に立地する中小企業や個人商店が多数被災しており、中心市街地の復興には中小企業や個人商店の事業再建が不可欠。また、支援金による支援には限界があり、一過性のものであることから、経営的なノウハウでの支援など、ソフト面での継続的な支援が必要。
2. 商店街の維持を図る上では、既存事業者の再開にとどまらず、新規事業者の誘致なども必要。

■長期総合計画における目指す目標

○商工業の活性化に向け、本市の実態を踏まえた支援を図り、にぎわいをつくります。

- (1) 商店街の活性化支援
- (2) 中小企業経営支援の充実
- (3) 企業立地の推進
- (4) 就業・雇用環境の向上

■復興の方向性

1. 事業再開や商店街の再生は市の復興に大きく関わる。事業者の営業活動再開時だけでなく、再開後の事業継続など、局面に応じた支援を実施。
2. 事業再開支援に加えて、新規事業者を誘致するなど、商店街の機能維持と集客力の向上を図るための施策を展開。

課題９ 観光と交流のまちづくり【観光】

■現 状

- 震災により観光施設などが被害を受け、平成２３年１～６月期の市内観光客入込数が対前年比２４．９％の減、同年４～６月期の入込数が対前年比７０．３％に減少するなど観光客が激減。

■復興の課題

- １．断続的な余震、風評被害などの影響により、観光客が減少。
- ２．震災によりマリンゲート塩釜などの観光施設やＪＲ本塩釜駅など店が甚大な被害を受けており、一部施設で閉店状態にあり、市内の商店・事業所も被害を受けている。しかし、国の支援制度がほとんどないため、復旧に時間を要している。
- ３．塩竈市の観光は、大きな目玉施設で誘致するという方法ではなく、小さな店を育てるようなやり方をとってきたため時間がかかる。震災前の状態へ持って行くこと自体に相当の時間が必要。

■長期総合計画における目指す目標

- 「魚のまち」「寿司のまち」「地酒のまち」「スイーツのまち」「藻塩のまち」と呼ばれる本市の魅力ある食を積極的に発信するとともに、訪れた人々が“おいしさ”などを気軽に楽しめるように、まち全体に笑顔でもてなす体制をつくります。
- (１) 観光資源の創造と情報発信の推進
 - (２) 笑顔でもてなす体制の充実
 - (３) 広域観光の推進
- 本市の“顔”となる中心市街地を再生し、回遊性の高いまちをつくります。また、まちの魅力を生かしながら、歴史、文化が感じられる趣のある“まちなみ”をつくります。
- (１) 中心市街地の再生
 - (２) 都市景観の整備

■復興の方向性

1. 正確な復興情報の発信による県内外における観光PRやプロモーション活動の積極的な推進
2. 観光施設や商店・事業所等の早期復旧・復興に向けた国への制度新設・拡充の要請。
3. 観光資源の掘り起こしと磨き上げに向けた大型キャンペーンの活用。観光施策の推進体制の確立、地域間交流・連携の推進

課題 10 うるおいと魅力ある島づくり【住宅（浦戸）】

■現 状

○東日本大震災による津波によって住家に甚大な被害。特に浦戸地区では居住区域のほとんどで浸水するなど、一部の高台地域などを除いて壊滅的な被害。

- ・全壊戸数200戸、大規模半壊77戸、半壊36戸
(平成23年6月30日現在)

■復興の課題

1. 島民の高齢化、浅海漁業と住まいの結びつきを考慮した住宅再建。
2. 住宅再建に対する特別名勝松島の規制。

■長期総合計画における目指す目標

○浦戸諸島のすばらしい自然環境と調和した、快適な生活環境をつくります。

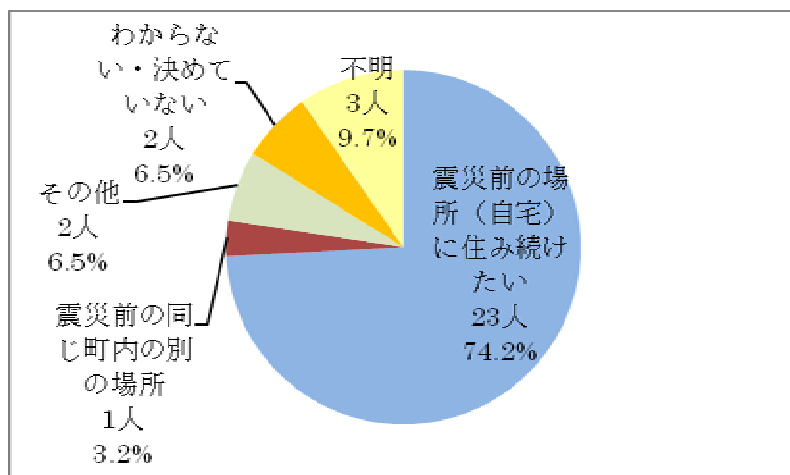
- (1) 生活基盤の整備

■復興の方向性

1. これまでのコミュニティを維持することを前提とした高台移転や災害公営住宅などによる住宅の再建支援。
2. 住宅再建に対する規制緩和の働きかけ。

『浦戸地区における住宅再建の意向（中間報告）（市民意向調査より）』

問27 今後のお住まいの場所についてお伺いします。



課題 1 1 うるおいと魅力ある島づくり【生活基盤（浦戸）】

■現 状

○震災によって航路や浮き桟橋などが被害を受けるなど、島民の足である離島航路の運航、渡船の運行に支障が発生。また、浦戸診療所の診療回数の減少、集落排水施設の損壊など生活環境が悪化。

■復興の課題

1. 震災をきっかけとした生活環境の悪化による島外への人口流出が懸念。
2. 特に高齢化率の高い浦戸地区においては、高齢者の医療・福祉環境の整備や、見守りなど、島全体による福祉のネットワークづくりを進めることが必要。

■長期総合計画における目指す目標

○浦戸諸島のすばらしい自然環境と調和した、快適な生活環境をつくれます。

- (1) 生活基盤の整備

■復興の方向性

1. 特に生活に密接に関わりのある離島航路、浦戸診療所などの公共施設、市民サービスの早期復旧。
2. 医療・福祉環境の充実と、相互見守りなど高齢者の支援体制の整備、地域コミュニティの強化促進。

課題 1 2 うるおいと魅力ある島づくり【産業（浦戸）】

■現 状

- 東日本大震災により、牡蠣や海苔などの浅海漁業施設が甚大な被害を受けて壊滅的な状況。
- 海水浴場やハイキングコース、休憩所などの観光交流施設も甚大な被害を受け、交流活動が停止。

■復興の課題

1. 生産基盤である漁港や養殖施設の被害等により、漁業者の離職が懸念。さらに、浅海漁業に携わる人の高齢化や後継者不足などによる就労者の確保等。
2. 浦戸地区の生活基盤や産業基盤の回復は最も優先すべき課題である一方で、浦戸の振興には自然を活用した交流人口の増加を図ることも重要であるため、様々な観光資源の回復も必要。

■長期総合計画における目指す目標

- 浦戸諸島ならではの自然や特色を生かしながら、浅海漁業などの振興や交流活動を推進し、魅力ある島をつくれます。
- (1) 浅海養殖漁業の振興
- (2) 浦戸諸島の環境保全
- (3) 交流体制の充実

■復興の方向性

1. 浅海漁業に係る施設や設備等の早期復旧、経営改善にむけた商品のブランド化の推進。
2. 復興と調和した次代に継承すべき貴重な自然景観の保全と、観光交流施設の整備や受け入れ態勢の再整

課題 1 3 子どもの夢を育むまちづくり【教育（学校教育）】

■現 状

- 学校施設への震災によるダメージが大きく、復旧工事を済ませた学校施設においても耐久年数が予定よりも短期化。
- 子どもたちの地震に対する不安の顕在化が顕著。

■復興の課題

1. 各小中学校施設とも震災による被害が大きく、復旧後も耐用年数の短期化も想定されるため、計画的なメンテナンスが必要。
2. 震災による子どもたちの発達への影響を考慮した心のケア。
3. 今回の事例を踏まえた防災教育の充実。

■長期総合計画における目指す目標

○心豊かで健やかに生きる子どもたちを育むまちをつくれます。

- (1) 学力の向上
- (2) 豊かな心を育む教育の充実
- (3) 健やかな体の育成の推進
- (4) 一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実
- (5) 食育の推進
- (6) 歴史、文化の尊重と国際理解を育む教育の推進
- (7) 生命の大切さを学ぶ教育の推進
- (8) 特色ある学校づくり

○子どもたちが安心して学べる教育環境をつくれます。

- (1) 学校施設の整備・充実
- (2) 学習設備の充実

○学校・家庭・地域が協働して子どもたちの成長を支えるまちをつくれます。

- (1) 地域との協力体制の構築
- (2) 学校情報提供の双方向性の確立

■復興の方向性

1. 地震により被害を受けた小中学校の校舎、屋内運動場、給排水設備の早期本格復旧。学校教育施設の計画的なメンテナンス。
2. 震災によって子どもたちが受けた影響に対する心のケアの実施。被災した児童生徒への継続的な支援。
3. あらゆる災害を想定した防災教育の推進。

課題 1 4 豊かな心を培うまちづくり【教育（生涯学習・文化・スポーツ）】

■現 状

○東日本大震災による地震・津波によって生涯学習施設、スポーツ施設及び文化財に被害。震災前の状況に比べ生涯学習関係の市民サービスが低下。

■復興の課題

1. 生涯学習環境及びスポーツ環境の被災による機能低下。
2. 文化財・芸術作品の保護及び被災した民間の蔵などから歴史的価値のある資料の散逸が懸念。
3. 震災に関する資料の散逸、風化が懸念。

■長期総合計画における目指す目標

- 笑顔にあふれ、心豊かに生活していくため、生涯にわたって学び、交流できる環境をつくれます。
- (1) 学習機会の充実
 - (2) 学習活動の支援
 - (3) 生涯学習環境の整備
- 「塩竈」の歴史、文化・芸術の保存、継承、創造を大切にするまちをつくれます。
- (1) 歴史の継承
 - (2) 文化・芸術活動の機会の充実と支援
- 生涯にわたってスポーツができる環境をつくれます。
- (1) スポーツ機会の充実
 - (2) スポーツ環境の整備

■復興の方向性

1. 地震により被害を受けた市内の生涯学習施設、スポーツ施設及び文化財の早期本格復旧と市民へのサービス提供水準の復旧。
2. 東北歴史博物館や文化財レスキュー機関など、関連機関との連携による文化資料の保護。
3. 震災に関する資料の収集、整理・保存の推進。

課題 1 5 協働で創るまちづくり【情報】

■現 状

○東日本大震災によって長期間にわたり情報伝達に不具合が発生。

■復興の課題

1. 町内会・NPO・企業など多様な主体との情報網の構築や情報伝達手段の強化。

■長期総合計画における目指す目標

○市民と行政のパートナーシップ確立のため、市政情報の積極的な受発信をするとともに、本市の魅力を「塩竈ブランド」として国内外に広く発信する体制をつくります。

- (1) 市政情報の充実
- (2) 情報化の充実

■復興の方向性

1. 情報インフラの強化や、コミュニティ放送など様々な媒体を活用した情報発信体制の構築。町内会など多様な主体との情報網の構築。